

**おおた教育振興プラン**

学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させる。

**学校の教育目標**

- 元 気 な 子    ○考 え る 子
- が ん ば る 子   ○ や さ し い 子

**保護者・地域**

家庭・地域の実態  
保護者・地域の期待や願い

**学校経営方針(学力向上にかかわる要点)**

○授業改善推進プランの実施を徹底し、基礎的・基本的な学習内容を確実に習得し、活用能力を高める。

**各教科の指導の重点**

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 体験的・問題解決的な学習を重視するなど、学習指導方法の工夫・改善に努める。

**基礎基本の定着**

- ・朝学習・補習教室を週計画で位置付ける
- ・家庭学習の励行    ・音読は毎日の宿題

**基本的な生活習慣の定着**

- ・「大三小10のやくそく」学習規律の確立
- 低学年・中学年・高学年に応じたプランを作成しプランの実行を月ごとに振り返る

**道徳教育の指導の重点**

- 感性や情操をはぐくむ体験的な活動との関連を図り、道徳の時間の充実を図る。
- 思いやり・親切、友情・信頼、助け合い、礼儀の指導に重点をおき、「やさしい子」の育成を図る。

**生活科、総合的な学習の時間等の指導の重点**

- 人とのかかわりを活かして自ら学ぶ活動を推進する。
- 地域と連携して指導の充実を図り、さらに人とのかかわりを通して地域への愛着心を育てる。
- 各学年の児童の興味・関心に基づいた課題解決能力を高める活動を展開する。
- 各学年とも、外国語活動に取り組み、コミュニケーション能力の育成を図る。

**本校の考える「確かな学力」**

- 学ぶ意欲
- 問題解決能力
- 表現する力
- コミュニケーション能力
- 知識・技能の定着
- 生活に活かす力

**特別活動の指導の重点**

- 学校生活をより明るく楽しくするために豊かな体験等有意義な活動になるように工夫する。
- 縦割り班活動による異学年交流や集会活動やふれあい活動を通して、友達と協力してよりよい学校生活を築こうとする意欲を高め、自主的・実践的態度の育成に努める。

**生活指導の重点**

- 全職員の共通理解で指導にのぞむ    ○基本的な生活習慣の徹底    ○規範意識の向上
- 安全意識の向上    ○環境に配慮する子供を育てる

**本校の授業改善の視点**

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 問題解決的な学習や体験的な学習を重視し、児童の主体的な活動を引き出す指導法を工夫する。</li> <li>* 地域を活かした教材を用いたり、外部講師を招聘したりする授業を多く取り入れる。</li> <li>* 児童の習熟の程度や興味・関心等に応じた個別指導と少人数指導を推進する。</li> <li>* 各教科を通して、自分の思いや考えを深め、適切に表現する能力の育成を図る。</li> <li>* 生活に活かせる国語力の向上を図る。言葉や語彙の指導に重点を置く。</li> <li>* 大田区漢字検定を活用し、漢字の習得を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業時間を確保し補助的な指導で基礎基本の定着、学ぶ意欲、表現力、思考力を培う。</li> <li>* 読み聞かせ、読書活動を計画的に取り入れ、豊かな感性の育成や知識と読書習慣の定着を図る。</li> <li>* 週ごとの指導計画による計画的な指導の完全実施と時数確保に努める。</li> <li>* 補習教室(放課後・土曜日)を実施し学力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 話し合い活動を中心とした道徳の授業を通して、豊かな社会性と人間性を育てるための授業づくりを校内研究として取り組む。各学年1回の研究授業と協議会を行い、授業力の向上を目指す。</li> <li>* 特別支援教育に関する研修を実施し、ユニバーサルデザインに基づいた授業設計を推進する。</li> <li>* 教育相談研修や校内指導体制の充実により、児童理解の深化を図り、学習支援能力の伸長を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導要領を踏まえ、年間指導計画に基づく、評価規準・評価計画の改善・活用を図る。</li> <li>* 校内研究の地域教育連絡協議会への公開や学校公開等の参観を通して外部評価を受け、改善に活かす。</li> <li>* 評価結果の公開や改善策について学校だよりやホームページ等で情報公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校支援地域本部(スクールサポートおおさん)の協力を得て、地域の人材を活用した授業やわくわくスクールを推進する。</li> <li>* 基本的な生活習慣や家庭での過ごし方(生活リズム・家庭学習等)の定着のために、より密接な家庭や地域との連携を図る。</li> <li>* 区・PTA・地域行事等において児童の活動発表を積極的に推進する。</li> <li>* 保・幼・小・中の情報交換や交流活動を深める(年間5回)。</li> </ul>

令和元年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年も、国語の学習に自主的に取り組んでおり、高学年では学習効果測定の結果が前年度よりも上がっている。
- ・「話す・聞く」と「書く」は、活動の工夫や授業改善により、自信をもってできる児童が増え、表現することを楽しみながら行えるようになった。
- ・読書活動が充実したことにより、積極的に本を読む児童が増え、文章を読む力が付いてきた。

(2) 課題

- ・学年が上がると苦手意識が高まる傾向にあるため、授業の工夫が必要。
- ・相手の話を聞き、聞いたことから自分の考えや意見をもって述べる力を付ける。
- ・学習した文字（平仮名、片仮名、漢字、ローマ字）を活用して、目的に沿った文を書く力を付ける。
- ・文の構成を正しく理解する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第4学年	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い		
第5学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第4学年時)	
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高いものが多い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い (第5学年時)	目標値よりも高い 全国平均正答率と同程度 区平均正答率よりも低い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
読み聞かせなどは好むが、学習課題に対する興味・関心は個人差が大きい。	話し合いで必要なこと（共通点や相違点を考える等）は理解している。	意見と理由を書くことはできるが、段落に分けて書くことに課題がある。	人物の気持ちの読み取りや、説明文で要点に注意して読むことに課題がある。	文の構成は理解している。漢字とローマ字の読み書きが定着していない。

② 高学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
内容が難しくなり苦手意識をもつ児童が増えている。文章問題をしっかり読まずに課題に取り組んでいる。	話し方の工夫を考えたり、話を聞いて、内容を要約したり、まとめてメモをとることが苦手である。	指定された字数で書くこと、段落分けや要約ができる児童が少ない。	段落のまとまりを考え、要点を捉えながら説明文を読むことが苦手である。	文の構成（主語、述語、修飾語）や指示語について、理解と意識が低い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
・正しい姿勢や学習のルールを繰り返し指導する。 ・「話す・聞く、書く、読む」の基礎基本を、分かりやすく指導し、定着させる。	・目的を明確にした話し合い活動を通して、必要な言葉が抜けないように話す力や、集中して話を聞く力を付ける。	・文の書き方を、ICTや「かくってたのしいね」を活用して分かりやすく丁寧に指導する。	・言葉や表現に着目させながら、読み方の基本を身に付ける。 ・自然の絵本を読む機会を増やし、説明文に慣れさせる。	・MIMで拗音や促音・撥音、助詞の使い方の定着を図る。 ・既習した漢字や言葉が活用できるように、作文や日記の指導を繰り返す。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
・文字を正しく丁寧に書くことを日常的に指導する。 ・読み聞かせやブックトーク等で本に対する興味を広げる。	・いろいろな形態で話し合わせ、相手や目的を意識した話し方を身に付けさせる。 ・聞く活動は、話の中心に着目させ、メモを取ったり、まとめたりすることを繰り返す。	・文の構成を意識し、段落分けをして書くことができるように、ICTを活用するなど分かりやすく指導する。 ・「書くって楽しいね」を活用し、丁寧に指導する。	・司書教諭と連携し、読書活動を工夫する。 ・文章の叙述や言葉に着目して、丁寧に読ませる。(接続語、指示語、文章表現、文章構成、段落の要点、要旨)	・日常的に辞書を活用させ、調べる習慣を身に付けさせる。 ・基礎学習の時間に、音読や文字指導、短文作りなどの活動を積み重ねる。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	言語
・文字を正しく丁寧に書くこと、声を出して音読することを日常的に指導する。	・相手や目的を意識し、自分の考えが伝わるように、適切な言葉づかいで話し合わせる。	・「書くって楽しいね」を活用し、自分の意見と、その理由を区別して書く力や、決められ	・文章の叙述や言葉に着目して線を引き、言葉や文章表現から、気持ちや場面、状況が読	・文の構成を正しく理解させるために、ICTを使って分かりやすく指導する。

<p>・読書の時間を設定し、読書環境を整えて幅広く読書させる。</p>	<p>・話の中心をとらえることができるように、聞いたことをまとめる活動を増やす。</p>	<p>た文字数で文を書く力を付ける。</p>	<p>み取れるようにする。</p>	
-------------------------------------	--	------------------------	-------------------	--

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年も、目標値よりを上回っている。
- ・5年・6年で、前年度よりも「関心・意欲・態度」が上がっている。
- ・5年・6年で、全国値・区平均を上回っている。
- ・5学年では、「先人の働き」「地図の見方」の正答率が、昨年度に比べ、大きく上昇した。
- ・6学年では、「北方領土」「日本の貿易相手国」の正答率が、昨年度に比べ、大きく上昇した。

(2) 課題

- ・学年が上がるにつれて、社会的事象への関心・意欲・態度のポイントが下がっている。
- ・記述で答える問題（表現力）の正答率が、低い傾向にある。
- ・単元ごとの理解度のポイントに大きな差がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第4学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い		
第5学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも高い

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
問題や資料の読み取りを難しいと感じている児童の関心・意欲・態度のポイントが低い。用語の意味を理解できないこととグラフを正しく読めないことが要因として考えられる。	地図記号や方位の知識をもとにして、方位磁針の針のふれ方について実際の調査場面に即して判断するも問題の正答率が著しく低い。地図記号や方位の知識が定着していないことが原因にあると思われる。	地図記号や方位の知識をもとにして、与えられた条件の目的地を指摘することができていない。地図記号や方位の知識が定着していないことが原因にあると思われる。	地図記号や方位の知識が定着していない。

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
関心・意欲・態度が昨年度より上昇した。しかし、学習内容が変化するにつれ、実感が伴わない	区や全国の平均値を上回り、概ね良好である。しかし、記述で答える設問は無回答が	複数の資料をもとに読み取る問題に対して前年度より正答率が下がっている。正しい資料を	区や全国の平均値を上回り、概ね良好であるが、昨年同様、単元ごとの理解度に大きな差があ

こと、覚える内容が難しいことなどから、関心・意欲が薄れていく傾向がある。	目立った。学習したことを活用する設問に課題がある。	選択したり、グラフを読み取ったりすることに苦手意識をもつ児童が多い。	る。
--------------------------------------	---------------------------	------------------------------------	----

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### （1）中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
見学・体験を伴った学習を多く取り入れ、社会科に対する興味・関心が持続するようにしていく。	問題解決的な学習を意図的・計画的に行う。学習問題を立て、予想を考える、学習問題に対する自分の考えをまとめる、という学習を繰り返し行って、考えて表現する力を伸ばす。	3年生のうちから、地図を活用した学習活動を積極的に取り入れる。資料の読み取りを丁寧に指導する。また、その資料がどんな社会的事象につながっているのかを読み取らせていく。	地図記号や方位の知識について、繰り返し指導していく。

#### （2）高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
調べ学習を多く取り入れたたり、映像資料を活用したりするなどして、児童に身近な問題としてとらえられるようにする。また、導入時に的確な資料を提示し、問題解決型学習へと展開させていく。その中で、興味・関心を持たせる。	単元を通して、問題解決的な学習を意図的・計画的に行う。また、自分で考えたことや活かしたいことなどを児童が主体的に考え、表現できる機会を多く設定していく。	資料を視覚的に捉えることができるように、拡大資料や映像などを多用し、読み取る視点を明確にしながら、丁寧な指導を行う。その上で、複数の資料から読み取れる社会的事象を明らかにしていく。地図帳なども活用する。	社会的事象に関する用語は丁寧に調べさせ、活用できるように指導し、国語辞典も活用する。学習したことをもとに、自分たちで問題を作って解き合ったり、新聞やリーフレットなどを作ったりして、知識を確かなものにしていく。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 4、5、6 学年全てで目標値を上回ることができた。
- ・ 6 年生については、すべての観点で大幅に前年度や区、全国の平均を上回った。

(2) 課題

- ・ どの学年も目標値は上回っているが、6 年以外は区や全国の平均値を下回った。
- ・ 観点別に見ると「数学的な考え方」、基礎・活用で見ると「活用」の特に「思考・判断」、領域別に見ると「図形」の正答率が他と比べて低い傾向がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果
第 4 学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い		
第 5 学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い  (第 4 学年時)	
第 6 学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率と同程度 (第 5 学年時)	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも低い  (第 4 学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
概ね良好であるが、既習事項の学習内容が身につけていないため、活用問題に取り組めないの で、関心・意欲・態度のポイントを下げている。	円や球を使った問題、正三角形の性質を使った問題、式の意味を場面と結びつけて考える問題の正答率が低い	2つの時刻の間の時間を求めることの正答率が低い。また、かけ算の筆算を使った計算については苦手意識の高い児童が多く、正答率も低い。	長さ、重さの推察が苦手である。 c m、m、k g などの単位からの長さや重さのイメージができない。

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習事項の学習内容、特に計算の仕方が身につけていないために算数全般の理解が難しく、関心・意欲・態度のポイントを下げている	伴って変わる二つの数量の関係を式に表す問題、文章問題を表した図を選択する問題の正答率が特に低い。	小数、分数の計算全般、正方形の面積を求める問題、ひし形の作図の正答率が低い。	概数の表し方、二次元表の読み方の理解が難しい児童が多い。

る。  目標値に対し、約20ポイント以上高い結果となった。区平均、全国平均と比べても20ポイント近く上がっている。	目標値に対し、約30ポイント高い結果となった。区平均、全国平均とは比べても約20ポイント上昇した。	目標値に対し、約20ポイント高い。区平均、全国平均とは比べても約10ポイント上昇した。基礎的な四則演算の間違が多い。	目標値に対し、約20ポイント高い。区平均、全国平均とは比べても約10ポイント上昇した。合同な図形、角や円についての理解がやや不足している。
---	---	--	---

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### （1）低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
導入場面で、実生活に即した場面を設定したり、算数的な活動を計画したりするなど、児童の興味・関心を高める工夫をしていく。	文章問題の立式が苦手な児童が多いので、問題解決的な学習を意図的、計画的に行う。何を問われているのか、大事なところに線を引いたり、図をかいたりしてから式を立てるようにする。また、筆算の仕方などについて、形式的な手続きの理解に偏らないよう、ブロックなどを活用して思考力を深める。	中学年の学習にスムーズに入れるようにするため、10の分解、繰り上がりのたし算の筆算、繰り下がりのひき算の筆算、かけ算九九の演習を繰り返し行う。	数量関係の把握が苦手である。具体物を操作することで、数量に関するイメージをもたせ理解につなげられるように指導を行っていく。

#### （2）中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習事項の確実な定着を図ることが、新単元の問題解決をする過程において、関心・意欲を継続させると考える。既習事項の定着、復習をその都度行っていく。デジタル教材を有効活用する。	問題解決的な学習を通し、対話的学習を多く取り入れ、複数の考え方や解法に触れながら主体的に考えをもてるようにする。図や言葉を用いて自分の考えを表現できる指導を行っていく。	高学年の学習にスムーズに入れるようにするため、四則計算については繰り返し定着を図る。筆算の仕方などノート指導を統一し、技能の定着を図る指導を行う。	「量と測定」の単元については、単位換算する理解が難しかったため、数量の推察が基準をもってできるように、具体物の操作をしながら指導を行っていく。

#### （3）高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
新単元にスムーズに入れるようにするため、導入などで既習事項の定着、復習をその都度行っていく。また、意欲の継続に向けて、様々な考え方に触れられるような学習の形態を工夫し、必要に応じて具体	図や数直線に表す指導を繰り返し行い、表現力をつける。既習事項に関する知識を用いて課題に取り組んでいけるようにする。教えあったり、考え方を共有したりする活動を設定する。	計算のきまりを含めた四則計算の復習を徹底する。丁寧なノート指導により、計算や作図の精度を高めるようにする。コンパスや分度器の扱いに慣れさせる。ワークテスト等での見直しや解き	数量関係の把握をスムーズに行えるようにする。長さ、面積、体積などの単位からの量感をイメージできるように繰り返し指導し、掲示、ICTなども工夫する。



物を用意する。デジタル教材を有効活用する。

直しの意識も高めていく。

(1) 成果

- ・第6学年では、目標値・区平均・全国平均のすべての項目で、校内平均正答率が上回った。
- ・第4学年では、目標値・区平均の項目で、校内平均正答率が上回った。

(2) 課題

- ・第5学年では、目標値・全国平均の項目で、校内平均正答率が下回った。
- ・「思考・判断」についての正答率が低い。
- ・「技能」についての正答率が低い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第4学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも高い		
第5学年	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率と同程度	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも高い (第4学年時)	
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い (第5学年時)	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
概ね良好。	時間の経過に伴う影の動きや磁石の働きについて、理解はできているが思考を伴う問題に対しての正答率が低い。	植物の種の様子や、植物が成長していく過程を記録する際の注意点や観察すべき内容についての知識が身に付いていない。	概ね良好。

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
概ね良好。	実験結果をもとに、考察を進めていく上で、自分の言葉で表現することに課題がある。また、いくつかの事象を関連付けて考える問題の正答率が低い。	どの条件を揃えて実験を行うか等の、実験に関する技能が身につけていない。第5学年は、動物やからだのつくりをなどの視点を決めて観察し、細密画や説明文で観察カードに記録する	「1年間の動物の様子」と「動物のからだのつくりと運動」についての正答率が低い。「生命・地球」領域の正答率がやや低い。人間の臓器や動植物のつくり、育つ過程についての知識が定着

		技能が弱い。	していない。
--	--	--------	--------

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>児童にとって、見通しがもてるような学習の展開を工夫し、単元の導入などでは適切な資料を用意していく。実際に触れたり、体験したりする活動をなるべく多く取り入れるようにするなど、自分事として考えられるようにする工夫が必要である。問題解決を図る手順を習慣づける。</p>	<p>予想や考察を自分で考え、表現する活動を充実させる必要がある。絵や図、表なども必要に応じて用いたり、自分の考えを整理して、友達と伝え合ったりする機会を設ける。デジタル教材を効果的に活用し、具体的なイメージが持てるようにする。</p>	<p>観察・実験のねらいをはっきりさせ、そのための条件を明確にする。実験器具の名前や扱い方をしっかりと理解させる。一人一人が実験器具を適切に使うことができるように、活動場面を多く設定する。実験・観察を行う際には、方法や、注意点についてしっかりと指導し、知識の定着を図る。</p>	<p>重要語句や資料を掲示し、定着を図る。普段の生活や自分の体験と結びつけ、実感を伴った理解を目指す。自然事象について、比較したり関連付けたりしながら、理解を深められるようにする。たしかめプリント等を活用して、知識の定着を図る。</p>

#### (2) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>単元の導入時には、実際の生活と関連付け、観察や実験等の直接体験を重視した内容や学習の展開をしていく。</p>	<p>予想を立てる際は、生活経験から根拠のある表現をさせるようにする。条件についての理解（変えるものと変えないもの）を深める。実験から分かったことをまとめ、そこから分かったことや考えたことを表現する時間を十分にとる。</p>	<p>実験器具の名前、使い方を正しく理解させる。実験は少人数で行わせ、実験の手順や条件を明確にさせる。また、一人一人が役割を担い、責任感をもって参加させる。観察・実験の方法を考え、視点を明確にし、実験結果の見通しをもつことができるようにする。</p>	<p>重要語句や資料を掲示し、定着を図る。実感を伴った理解を目指し、日常生活との関連を示したり、考えさせたりする。写真や映像等、視覚的に科学的事象を捉えられる、効果的な資料や教材を活用していく。</p>

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・身近な植物を育てたり動物と触れ合ったりする活動を通して、生き物への関心が高まり、命を大切にすることが芽生えた。校庭の周辺や裏庭の豊かな自然環境を活かして、草花遊びや虫の観察、草花を育てるなどの活動ができた。
- ・友達や教職員、学校や地域を支えている人々と触れ合う機会、1・2年の交流の場の設定、夏休みや冬休みに家庭での手伝い活動等を設定することで、自分達は多くの人に支えられていること、家族や学校の一員であることに気付くことができた。また自分の成長にも気付くことができた。

(2) 課題

- ・年間指導計画を毎年見直し、学校行事や地域の行事等と連携を図ったものにする。身近な植物や動物との触れ合いの活動を意図的に設定し、観察の方法等を意図的に提示して児童の気付きの質を高めていくための工夫が必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
<p>学習に、継続して意欲的に取り組めるように、教材の提示のタイミングや方法を工夫する。 身近な自然や植物、生き物との継続的な関わりの機会を増やす。</p>	<p>体験を通して感じたことや喜びを多様な形で表現できるように観点を明確にし、表現する方法を工夫させる。特に、ICTを活用した発表や振り返りを行う。また、友達同士で認め合える意見交流の時間を設ける。</p>	<p>友達や先生方、学校や地域を支えている人々と関わる活動、1・2年生の交流活動を設定したり、お手伝い活動をしたりして、自分が多くの人に支えられ、家族や学校、地域の一員であることに気付き、自分の成長に気付くことのできる活動を行う。 身近な自然や植物、生き物と継続して関わる中で、気付きを深めて、いけるようにする。</p>

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・楽器の演奏に意欲的に取り組む姿が増えた。
- ・響きのある声で歌おうとしている。

(2) 課題

- ・聴きあう力が十分ではない。
- ・打楽器には意欲的だが、リコーダーには意欲的ではない児童が多い。
- ・拍を感じながら演奏することが難しい。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	技能	鑑賞
身体を動かして拍を感じることで、音楽を楽しんだり、興味・関心をもったりできるように活動に工夫をする。	音の高さや音色、拍のまとまりを感じ取れるよう、音遊びや手遊びなどを学習に取り入れる。	鍵盤ハーモニカの正しい運指やタンギングができるように一人ずつ演奏する場面を設け、丁寧に指導する。	音の種類や音色の違いを感じ取り、特徴や面白さに気付けるよう、板書やワークシート、発問を工夫する。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	技能	鑑賞
使用教材を工夫し、音楽を楽しむことができるようにする。	曲に合わせた発声・演奏法や、強弱の付け方を指導する。	声を響かせられるよう、常時活動を利用しながら意識づけをする。リコーダーでは一人ずつ演奏する場を設け、個々に合わせた指導をする。	音楽の要素を感じられるよう、提示法に工夫する。また音楽作りにつなげることで、音楽を構成する要素を実感できるよう指導する。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	技能	鑑賞
基礎理論・技術を定着させ、「分かる・できる」感覚が持てるよう、指導を工夫する。	曲想を意識し、それを表現できるよう、楽曲の理解を促し、それを歌唱・演奏法に結び付けられるよう、指導に工夫する。	歌唱ではハーモニーを作り、感じることができる。常時活動を取り入れ、響きあう感覚を養う。リコーダーでは、つまずき易い技術の再確認をする。	音楽の要素や構成を感じ取れるよう、教材や板書に工夫をする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・意欲的に取り組み、伸び伸びと楽しみながら取り組む児童が増えてきた。
- ・様々な材料に出会い、積極的に自分の色、形、イメージを表現できる児童が多くなった。

(2) 課題

- ・意欲的に活動する児童が多いが、反面落ち着きに欠ける児童もみられる。
- ・材料や用具の整備や児童が活動しやすい環境を整える。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
児童が楽しみながら、自分の感覚や活動を基に形や色などをとらえ、イメージをもてるようにする。	児童が形や色をとらえ、さらに自分のイメージを大切にしながら発想できる素材や材料を考え、活動できるようにする。	基本的な用具の扱いが身に付き、児童が手や体全体を働かせて扱えるように材料や用具を考え、授業の計画を立てる。	自分や友達の作品のよさに気付けるように、ICTを活用するなど、展示方法を工夫する等環境を整備する。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
楽しみながら活動できる児童が多い。 様々な材料や用具の体験を行い、さらに楽しんで活動できるようにする。	様々な材料や表現方法と出会い、豊かな発想をし、形や色などの感じを基に、自分のイメージをもって表すことができるよう児童の発想の広がりに対応する。	児童が表したいことを大切にしたい、児童が取り組みやすい材料や用具を準備し、それらを児童が進んで使い、表現を工夫できるようにする。	作品を作る過程で、自然と友達の作品や身近な美術作品を鑑賞し、よさや面白さを感じ取る場を大切にする。

(3) 高学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞
個性の強い児童もこだわりをもって自分の表現ができるように授業を設定し、それまでの材料や用具の体験、自分の見方や感じ方を大切に、さらに自分らしい表現を進んでできるようにする。	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもち、様々なテーマや表現方法、材料などから児童が発想や構想をできるように、場の設定や支援の方法など工夫していく。	児童が自分の表したいことに合わせて、児童が使いたい材料や必要な用具の特徴を生かし、工夫して表せるように環境を整える。	自分たちの作品や親しみのある作品などに出会い、よさや美しさに気付く、感じ取れるようにする。

1. 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・課題に対して興味をもって取り組むことができている。
- ・個別に指導をすることで、基礎的・基本的な技能を身に付けることができる。
- ・家庭科学習ノートを活用し、知識の定着が図れている。

(2) 課題

- ・日常での生活経験によって、実技の習得に差がある。
- ・以前に学習した内容を忘れていることが多い。
- ・家庭科用語の具体的な説明や手本が不十分であるために、指示が通らなかったり、指示したことが具現化できなかつたりすることがある。

2. 授業改善のポイント（観点別）

関心・意欲・態度	創意工夫	技能	知識・理解
児童の普段の生活から問題意識をもたせ、課題解決に向けた学習を行う。 電子黒板を活用して指示・内容を明確にし、意欲の継続を図る。	手本や他の児童の作品を提示することで、多様な考えや工夫に触れさせる。	実習を多く設定し、必要な技能を習得させ、以前に行った実習も復習できるようにする。 個別指導を通して、基礎基本の定着を図る。	家庭科学習ノートを有効に活用する。 継続的に反復して学習することで、理解を確かなものにする。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「ハッスルタイム」や体育集会を通して、体を動かす楽しさや喜びを味わうことができた。縦割り班での活動を取り入れたことで、どの学年も意欲的に運動を行えるようになった。
- ・「ハッスルタイム」を通して、持久力が全体的に高くなってきている。
- ・自分に合った運動や場を選んだり、工夫したりできるような学習カードを活用することで、少しずつ自分にあった課題を設定し、解決できるようになってきた。
- ・タブレットなどを活用し、自分の動きを確認することで、技能向上を図ることができた。

(2) 課題

- ・「早寝、早起き、朝ご飯週間」を実施するものの、習慣化ができていない。
- ・昨年に引き続き、投力に課題が残った。「投げる」ことにつながる効果的な教材・教具の開発・活用などを行っていく。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元の導入では、これから学習していく内容の概要が視覚的に分かるような学習資料を用意する。簡単なゲームや遊びを導入時に取り入れ、楽しみながら学習を進められるような授業を展開していく。	自分に合った動きや遊びを選んだり、工夫したりできるように、学習カードを効果的に活用していく。 友達の良いところ、真似したいところを発表し合える機会を意図的・計画的に設ける。児童に「どこに気を付けて行ったか。」等、コツを発表させる機会を多く設ける。	準備運動の中に、リズム遊びや鬼遊びなどを取り入れ、楽しみながら、身のこなし方や様々な運動感覚を養っていく。 持久力を養うために、体育朝会やハッスルタイムと連携して、鬼あそびなどの走る運動を行うようにする。	各領域の遊びの特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにしていく。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元の導入では、これから学習していく内容の概要が見えるような学習資料を用意し、「何を学ぶのだろう」と関心が高まるような授業を展開していく。 「自分はこう考える」「自分にできること」等、自分のこととして捉えられるような学習活動を行っていく。また、友達同士で認め合える環境を整えていく。	自分に合った動きや運動を選んだり、工夫したりできるように、学習カードを効果的に活用していく。 友達の良いところ、真似したいところを発表し合える機会を意図的・計画的に設ける。 友達や教師からアドバイスをもらうなど、自分から聞いたりする機会を設ける。また、自分の言葉で発表したり記録したりしておく。	準備運動の中に、補助運動を取り入れ、年間を通して、様々な運動感覚を養っていく。 動きや技の技能ポイントが分かるような学習資料を用意する。 持久力を養うために、体育朝会やハッスルタイムと連携したり、鬼ごっこなどの走る運動を行ったりする。 「投げる」ことにつながる効果的な教材・教具の開発・活用を行う。	「早寝、早起き、朝ご飯週間」の実施に伴い、家庭の協力のもと、習慣化を図っていく。「毎日の生活と健康」「育ちゆくからだわたし」の単元を中心に指導し、健康に対する知識・理解を深めていく。 各領域の運動の特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにしていく。



(3) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>単元の導入では、これから学習していく内容の概要が見えるような学習資料を用意する。毎時間、自分のめあてを設定し、見通しをもって学習活動に取り組めるようにしていく。</p> <p>「自分はこう考える」「自分にできること」など、自分事として考えることができるような学習活動を行っていく。また、友達同士で認め合いアドバイスし合える環境を作り、課題をもって取り組めるようにしていく。</p>	<p>自分に合った運動や場を選んだり、工夫したりできるように、学習カードを効果的に活用していく。</p> <p>友達の良いところ、真似したいところを発表し合える機会を意図的・計画的に設ける。</p> <p>自分やグループの特徴に応じた動き方を知り、その特徴に応じた取り組み方や作戦等を考えるようにしていく。</p> <p>単元の終わりには、達成状況を振り返るようにする。</p>	<p>準備運動の中に、補助運動を取り入れ、年間を通して、様々な運動感覚を養っていく。</p> <p>動きや技の技能ポイントが分かるような学習資料を用意する。</p> <p>「投げる」ことにつながる効果的な教材・教具の開発・活用を行う。</p> <p>大田区小学生駅伝大会に向けて、持久力を養うために、体育朝会やハッスルタイムと連携して持久走を行う。授業にも取り入れていく。</p>	<p>「早寝、早起き、朝ご飯週間」の実施に伴い、家庭の協力のもと、習慣化を図っていく。「心の健康」「けがの防止・病気の予防」の単元を中心に指導し、健康に対する知識・理解を深めていく。</p> <p>近隣の大学に「がん教育」の講義を依頼し、講師を招く。</p> <p>各領域の運動の特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に運動が行えるようにしていく。</p>